

仕事が忙しいとき、現場では朝7時からラインに入って仕事を始めます。そんなとき、同僚の中には朝の5Sはやらなくてもいいと考える人もいます。しかし、早めに出動して毎朝欠かさず5Sを続ける同僚もいます。やるべきことができなくても仕方ない。そんなときはあるかもしれませんが、それでもやれば特別なこととなり、進歩し、成功に向かって進みます。そんな特別な同僚、それが黄燦燦さんです。

上海合璧総務課 李高燕

彼女の仕事は部品の検査です。内容は単純ですが、それでも彼女は其中に楽しみを見つけて仕事をしています。出荷が多いときは休憩時間にも仕事をします。それでも不満はいりません。ある日、寒くなって彼女は風邪を引きました。上司は早く帰って休むようにいいましたが、彼女は「大丈夫。手元の仕事だけ終わらせてから帰ります」と笑っていました。



彼女は、合璧の部品検査を担当するようになってからは午前と午後の休憩時間も返して仕事を続けています。もちろん不満はいりません。彼女の積極的な仕事に対する態度は周囲の人の間にも広がっていききました。彼女の情熱はわたしを動かし、わたしも他人を動かしたいと思うようになりました。そんな仕事熱心な彼女、それは黄林芝さんです。

上海合璧品質管理課同仁 李華娟

の高い人には見えなかったし、利益のみを追求する資本主義者にも見えませんでした。サンングラスをかけた怖い人たちも連れていません。彼は川辺の花壇で草花をいじったり、木々の害虫を検査したり、まるで勤勉な庭師のようでした。大勢の人でにぎわう食堂でわたしたちはいっしょに食事をしました。それは家族というようでした。わたしは董事長と会ったばかりか、話をし、写真を撮りました。こんなことは他の会社では考えられません。合璧には700人あまりの従業員がいますが、董事長は時間を割いてその全員と写真を撮っています。それに毎年年末にはひとりひとりに自らの手でボーナスを渡します。この会社の董事長はそれほどまで従業員のことを考えているのです。わたしは深く感動しました。

董事長は上海に来るといつもわたしたちに5Sの重要性を強調します。董事長は自分が掃除したトイレでは食事もできるし寝ることもできるといいます。また、便器を拭いた雑巾を濯いで顔を拭きます。掃除は5Sの最も基本的動作なのです。わたしたちはそれをするときに、進んでやる、喜んでやる、無償でやる、情熱を持ってやるのが大事です。こうして心を美化することで自らを高い境地へ導くことができるからです。そして5Sは仕事や生活にも影響を与えます。わたしたちは生活を愛し、仕事を好きになり、他人に優しくなり、さらには度量があつて人から尊敬される人になれるのです。

董事長はよく「利益の創造は企業の過程に過ぎない。感謝報恩、回饋社会（感謝に報いて社会に報いる）こそ我々の最終目的だ」といいます。それを実践するかのようには毎年利益の25%をボーナスとして従業員に、5%を慈善事業として社会に還元しています。功利主義の蔓延する今日において、董事長の思想や行動は本当に立派だと思います。

多くの資産家が金銭のことだけを考え、財産を増やす反面、他人に対して無情となり、本当の友達もなく、誰も信用できず、一生懸命の楽しみを知らずに死んでいくのに対して、董事長は違います。董事長は特別な環境に生まれたわけではありませんが、強い意志と変わらぬ決意で成功を遂げました。そして今でも体は健康で毎日楽しい日々を送っています。これは董事長が与えた分だけのもを受け取っているからです。

わたしの人生は董事長に会ったから変わりました。わたしが将来董事長になることはおそらくないと思いますが、それでも董事長のことを手本として生活に、仕事に一生懸命学んで生きたいと思えます。身近な小さいことをしっかりとやることで、内面を美化し、さらに成長していきたいと思えます。

上海合璧生産管理課主任 張玉霜



董事長と湖北麻城理工の学生たち



木村さんと現場作業員たち



董事長と記念撮影の優秀従業員たち



工場長と合璧の従業員たちが天平山で紅葉観賞



品質月昇論大会の参加者たち



Amyさんと英語愛好グループ

我が心の董事長

子供の頃、大きくなったら董事長になりたいと思っていました。董事長がどんな仕事をするのかよくわかりませんが、それでもテレビ見る限りではとても高い地位、まるで皇帝のようでした。どこへ行くにも大勢の怖い人-サンングラスをかけたボディガード-を連れていきました。そんな威厳のある姿が子供の頃のわたしにとってのあこがれでした。

大きくなるにつれて董事長の夢は消えていきました。あまりに現実離れしていると思ったからです。優秀な董事長になるには人一倍の意志と決断力が必要です。これらはわたしにはありません。それでも、董事長という言葉を聞いたたびに何か魅かれるものを感じ、子供の頃を思い出すのでした。

学校を卒業して、わたしは深圳のあるコンピューター会社に勤めました。仕事はたいへんでしたが、この会社で2年間働きました。この間、わたしは董事長に会ったことはありません。同僚がいうには高級幹部にならないと董事長には会えないとのこと。わたしは董事長も人なのに何故そんなに神秘的なの不思議でした。また、この会社は利益を求めすぎるため労働を無視した労働者を従業員に強いていました。こうしたこともあってか、わたしは徐々に董事長なんてなりたくないと思うようになりました。

上海合璧会社はわたしにとって二つ目の会社です。はじめて董事長に会ったとき、激しく湧き上がる興奮とともに心の中でこう思っていました。この人は本当に董事長？ 満面の笑み、親しみやすい風貌、善良そうな年配者。どう見ても地位の高い人には見えなかったし、利益のみを追求する資本主義者にも見えませんでした。サンングラスをかけた怖い人たちも連れていません。彼は川辺の花壇で草花をいじったり、木々の害虫を検査したり、まるで勤勉な庭師のようでした。大勢の人でにぎわう食堂でわたしたちはいっしょに食事をしました。それは家族というようでした。わたしは董事長と会ったばかりか、話をし、写真を撮りました。こんなことは他の会社では考えられません。合璧には700人あまりの従業員がいますが、董事長は時間を割いてその全員と写真を撮っています。それに毎年年末にはひとりひとりに自らの手でボーナスを渡します。この会社の董事長はそれほどまで従業員のことを考えているのです。わたしは深く感動しました。

董事長は上海に来るといつもわたしたちに5Sの重要性を強調します。董事長は自分が掃除したトイレでは食事もできるし寝ることもできるといいます。また、便器を拭いた雑巾を濯いで顔を拭きます。掃除は5Sの最も基本的動作なのです。わたしたちはそれをするときに、進んでやる、喜んでやる、無償でやる、情熱を持ってやるのが大事です。こうして心を美化することで自らを高い境地へ導くことができるからです。そして5Sは仕事や生活にも影響を与えます。わたしたちは生活を愛し、仕事を好きになり、他人に優しくなり、さらには度量があつて人から尊敬される人になれるのです。

董事長はよく「利益の創造は企業の過程に過ぎない。感謝報恩、回饋社会（感謝に報いて社会に報いる）こそ我々の最終目的だ」といいます。それを実践するかのようには毎年利益の25%をボーナスとして従業員に、5%を慈善事業として社会に還元しています。功利主義の蔓延する今日において、董事長の思想や行動は本当に立派だと思います。

多くの資産家が金銭のことだけを考え、財産を増やす反面、他人に対して無情となり、本当の友達もなく、誰も信用できず、一生懸命の楽しみを知らずに死んでいくのに対して、董事長は違います。董事長は特別な環境に生まれたわけではありませんが、強い意志と変わらぬ決意で成功を遂げました。そして今でも体は健康で毎日楽しい日々を送っています。これは董事長が与えた分だけのもを受け取っているからです。

わたしの人生は董事長に会ったから変わりました。わたしが将来董事長になることはおそらくないと思いますが、それでも董事長のことを手本として生活に、仕事に一生懸命学んで生きたいと思えます。身近な小さいことをしっかりとやることで、内面を美化し、さらに成長していきたいと思えます。

上海合璧生産管理課主任 張玉霜



不断地思考与行动
诚信规范创新卓越
创造价值共生共荣
感谢报恩回馈社会

2011/01
第6期 01月10日发行

出版社：合璧文化基金会 发行人：詹其力 编辑指导：陈庆煜、詹杰文
总编：王迎春、林生富 编辑委员：李华娟、刘仙、李高燕 印刷：上海综禾印刷有限公司

産学一体で共存共栄 湖北麻城理工学校訪問記

2010年12月20日から22日の日程で董事長が湖北麻城理工学校を訪問して講演を行いました。同行者は林経理、王さん、李華娟さんとわたしと李高燕です。一行は麻城に着くと、その足で学校へ向かいました。丁校長は我が社の経営理念をととても賞賛していました。というのも丁校長はひと月ほど前に我が社を訪れており、そのときまた台湾から工場視察に来ていた董事長と会って話をしたところ、この方面の専門家でも多くの工場を見学したこともある丁校長はわずか1時間という短い時間で我が社の経営理念の素晴らしさがわかったというのです。そんな丁校長の観察力の鋭さにわたしは驚きました。

わたしはまず建設中の新キャンパスを見学しました。麻城理工学校はこれまで何度も国家レベルの重要学校と評価されており、市の委員会や市政府からも注目されている学校です。新キャンパスは150棟（1棟は約6アール）の敷地をすでに確保、今後さらに650棟まで増やし、そこに2、3年かけて真新しいキャンパスを建設する計画だそうです。ひと通り見学が終わると車で現在のキャンパスに戻りました。そこでわたしの心に残ったことがふたつあります。

まず一つは丁校長の事務所です。そこには簡単な机と椅子、そしてベッドがそれぞれ一つずつありました。事務所なので机と椅子はわかるのですが、何故ベッドがあるのでしょうか。そこには学校を家のように考える丁校長の考えが垣間見えたような気がします。そういえば、以前日本に「再建の神様」と呼ばれる人がいましたが、彼も企業を再建するときいつもベッド持込みで日夜を問わず働いていました。この精神は尊敬すべきもので、だれにでもまねできるものではありません。董事長も丁校長の事務所に入ると鋭い洞察力ですぐにこのことを察し、「教育界ではあまり聞いたことがない」と感じしていました。また、「学校を家のように思い、心血注いで多くの学生を育て、そしてこの理念は合璧の感謝報恩、回饋社会（感謝と報恩の念を以って、社会に寄与する）の理念や関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）、同心、同歩、同調（同じ心と同じリズムでともに歩む）の行動方針と一致します。合璧の幹部が従業員とともに住んだり食事をしたりするのどこか通じるところがあるようにも思いました。

もう一つはキャンパスを見た感想です。青々と茂る山、流れる水と吊橋、芝生や花壇、噴水やコケ類、美しいレストラン、豪華な宿舎、こういったものはありませんでしたが、勉学を志す強い空気、湧き上がるような活力、我が家のような温かさが感じられました。このような環境こそ堅い意志をもった一流の人材を生み出すのだと思いました。キャンパスを行き交う学生を見ていると心迫る思いを感じます。彼らはわたしの弟や妹と同じ年頃で、まだ小さいのですが、それでも勉学に励み、将来の仕事のために頑張っているのが感じられるからです。合璧にも同じような年齢の同僚がいます。彼らは自分の家で大事にされていたと思いますが、一旦社会に出れば、特に上海のような生活リズムの速い大都市では自分の両足で歩いていくしかないのです。そう考えると改めて「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」の重要性を実感しました。わたしは弟や妹に接するように彼らに接しなければならないと思いました。



董事長の講演に聞き入る700名〜800名の学生

きて、講演は21日午前9時から三部に分かれて行われました。第一部では董事長が「経営の特色を作る。企業文化を育てる」について、その次に林経理が合璧はどのように従業員教育をしているかについて、最後にわたしははじめて社会に出る人たちが身につけるべき態度と合璧がどのように「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」運動を行っているかについて話しました。董事長の講演内容は長年にわたる合璧管理の真髄、つまりは合璧の魂でありバイブルであるものを聴衆に紹介したもので、それについて林経理が説明を聞き、さらにわたしは実例を挙げてより具体的に紹介しました。この様子を丁校長はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。そして最後に全体の感想を「思想、習慣」の四文字にまとめました。奇しくもこれは董事長が日頃わたしたち合璧の従業員に対していう精神主義刑のような言葉でした。そして董事長の講演で強く印象に残ったことがありました。それは七、八百名の学生を前に「みんなは合璧で働きたいと思うか」と聞くとき学生たちは「働きたい」と答え、中には「みんなは合璧で働きたいと思う」と大声で連呼したのです。そして鳴り止まぬ拍手。わたしはその光景の中に彼らの合璧に対する思いを感じました。そして人と人、心と心、学校と会社の共鳴を感じたのでした。

今回同行した中で、王さんは講演はしませんでした。しかし3時間の開会場の一角ですべての講演にじっと耳を傾けていました。そして李華娟さんも、講演はしませんが会社にいったばかりの後輩たちの面倒を見たり、熱心に働きました。途中、ひどい車酔いでたいへんでしたが、これらの仕事を最後までしっかりやり遂げた会社、学校の双方から高い評価をもらいました。

会場には学生の父兄も多く訪れました。彼らは講演のあとで董事長と食事をし、そこで台湾のお金を記念にプレゼントされました。また、その場で合璧の精神や理念、「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」運動を理解し、合璧は自分の子供を預けても大丈夫なところだと感じたようでした。

よい成績は周到な準備のもとにのみあります。合璧のように中小企業でここまで細かな準備を行う企業は多くないと思います。それに今回のように学校と協力して深く交流する企業も多くないと思います。また、「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」運動を行う企業もほとんどないと思います。

最後に、学校側の積極的な働きによってこのたび実現した「産学一体化で共存共栄」の講演会は今後の産学一体化の基礎を築いたといえます。「人材を作り、人材を活用する」。これは学校と企業がともに負わなければならない責任です。ともに手を取り合って、合璧の最終目的「創造価値、共生共栄（価値を創造して共生共栄）、感謝報恩、回饋社会（感謝と報恩の念を以って、社会に寄与する）」に向かつて進んでいきましょう。

上海合璧 総務課 李高燕特助

利益の創造は企業の経営過程、「価値創造、共生共栄、感謝と恩返し、社会への還元」、これこそわたしたちの最終目標。